

遠距離介護の試行錯誤 ―テレビ電話で母をみる―

(第2回)

家族の会会員 長坂 寿俊

[デイサービスに通い始める]

居宅介護支援事務所からケアマネージャーが来宅しました。これまでの要支援担当の相談員から、要介護担当のケアマネージャーに交替です。居宅介護支援契約を行い、ケアマネージャーには月1回程度の自宅訪問から始めて母を見てもらうことにしました。また近くの交番にも行き、警官の自転車での巡視時には特に家の様子を気にかけてもらうようお願いしました。この頃、母の安否を確かめる手段は毎晩の電話しかありません。

母「定期預金がそろそろ満期になる。年金から金が引き落とされるけど、外国人に盗られないか心配だ」、私「通帳は私が持っているから安心なさい」

母「今日、大丸で卵やウナギを買ったが食べるのを忘れた」、私「明日、食べれば良い」

母「いつも行く病院の先生は良い先生で病院も新しい、あっちこっち別の先生の所に行くのは病院の先生に悪い、診療所の先生も良い先生かも知らんが建物は古い」、私「専門が違う先生だから気にするな」

母「頭の病院にはもう行かない、頭に穴を開けられたらいやだ」、私「行かないから心配するな」

母「テレビでカセットコンロ爆発のニュースをしている、家のコンロは大丈夫か?」、私「大丈夫だ」

私「NHKで「功名が辻」を放送しているからテレビを見なさい」、母「今、見てる」

私「今、何してる?」、母「テレビを消して、これから寝るところ」

母「もう、つくばに帰ったか?」、私「東名高速道路を運転中だ、つくばは遠いからまだ着かない」

母「テレビが故障して音が聞こえない」、私「リモコンの音量大のボタンを押してみなさい」

母「洗濯機が故障して動かない」、私「水道の栓を開けてからスタートボタンを押みなさい」

母「台所の電灯が消えて真っ暗になった」、私「電磁調理器と電子レンジを同時に使ったら駄目だ、配電盤を見て下がっているスイッチを上げてみなさい」等々。

しばらくして、ケアマネージャーからデイサービス通所介護の利用を勧められました。京都市内には数多くのデイサービス事業所があります。独居している母が一人に対応できるのか心配でしたが、比較的近くで空きのあったK老人デイサービスセンターに決め、2007年5月から毎週1回火曜日に通うという契約をしました。ところがその翌日、「お金を払ってまずい昼食を食べるのはいやだ、ご飯は自分で炊ける。他人が使ったタオルや石鹸で汚れた風呂には入れない、家に風呂があるのに他所で入る必要はない、デイサービスに行くのはもったいないから断った」と電話してきました。これは大変です、すぐにケアマネージャーとデイサービスセンターに電話し「デイサービスの費用は一切かからない、風呂には入らなくて良い」という話に合せてもらい、「ただで食べさせてくれるから行かないと損だ」と母を説得しました。

デイサービスに通う初日の朝、母はいそいそと迎え



の車に乗り込んで出かけました。夕方、帰って来ると「昼食はおいしかった、楽しかった、来週からは一人で行ける」と言います。「学校に行って、先生からいろいろ教えてもらった」と思っているようです。まづまづの滑り出しに安心しました。翌週からはデイサービスには一人で行くことができました。ところが、6月中頃になって母から「デイからもらった紙に、食費 500 円とか、5 月分合計 7,600 円とか書いてある、金がかかるならもう行かない」と電話がありました。デイサービスセンターによると「5 月分の領収書を母に渡してしまった」とのことです。今後、経費等の明細は直接、私あてに郵送を頼みました。

〔郵便局に転居届〕

本人には役所から介護や年金に関する支払い明細ばかりでなく、大事な後期高齢者医療被保険者証や介護保険被保険者証まで郵送されてきます。これらを紛失したり、金がかかることが分かって余計な心配をかけたりしないようにと、郵便局に事情を話して京都からつくばへの転居届を出しました。これで郵便物は確実に転送されてきます。ただし転送期間は 1 年間なので、続けてもらうには毎年の更新が必要になります。

〔認知症と家電製品〕

高齢者や障害のある人にも使いやすい家電製品、いわゆるユニバーサルデザインに配慮した家電製品の開発が進められています。操作が理解しやすい、表示がわかりやすい、誤操作防止など安全に安心して使える、等に配慮された製品です。しかし、認知症の一人暮らしにはいくら安全とはいっても高機能製品は使えません。母が長年使っていたエアー給湯タイプの電気ポットが壊れてしまいました。早速、電器店に行きましたが、売られているのは最新式の電動給湯タイプのポットばかりです。それでも比較的シンプルな製品を購入し、母に使わせてみました。しかし、安全ロック機構の解除ボタンを押す意味が分かりません。また、お湯が沸くと電気コードをコンセントから抜いてしまう癖があるので、どのボタンを押してももう動きません。もう一度、旧来のエアー式電気ポットを探し回り、やっと外国メーカーの製品があるのを見つけました。

全自動洗濯機もボタンが多すぎて混乱してしまいます。標準コースでの洗濯のみに設定して、「スタート／停止」以外のボタンは押せないようにガムテープを張って隠しました。

電話機はまだダイヤル式の黒電話です。いつも持ち歩けるので便利だからと、その昔に年寄り向きの携帯電話も渡してみましたが、使い方をすっかり忘れてしまいました。

テレビのリモコンも使うことが難しくなりました。チャンネル切り替えや音量などいくつもボタンがあり、あれこれ押しているうちにテレビが映らなくなってしまう故障したと思ってしまいます。リモコンは隠して、チャンネルは NHK のみ、音量も合わせておけば、電源コードの抜き差しだけでオン・オフができます。他のチャンネルに切り替えることやリモコンがあったという事は既に忘れているようです。

エアコンは柱にリモコンが付けてあるのですが、これもやたらにボタンを押すので、暖房になったり冷房になったり、温度が変わってしまったりで困ります。オン・オフ以外のボタンを押せないように厚紙を加工してリモコンの他のボタンをふさぎました。電器メーカーには、オン・オフだけの簡単な操作のみで基本的に動かせる製品も一人暮らしの認知症の人のために作ってほしいものだと思います。